

第8回千葉県資源評価検討会議 会議録（概要）

- 1 開催日時 平成30年8月20日（月） 午後1時30分～午後2時15分
- 2 開催場所 千葉県庁本庁舎16階 農林水産部会議室
- 3 出席者 <構成員>
 県農林水産部水産局漁業資源課長 立岡 大助
 県水産総合研究センター次長（資源研究室長事務取扱） 鈴木 広之
 東北大学大学院農学研究科 教授 片山 知史
 <その他>
 県関係職員12名

4 検討事項

- (1) 資源評価基準について
- (2) 平成30年度資源評価対象種の選定について
- (3) 資源評価指標の変更について（コノシロ）
- (4) その他

5 検討事項の概要及び検討の結果

(1) 資源評価基準について

事務局から、第1回千葉県資源評価検討会議において決定された資源評価基準について、変更はしないが、漁獲が低迷する魚種の資源動向は、指標値の振れ幅が大きく、「増加」になりやすいため、計算上で「増加」となった場合においても、判断が難しい場合は「不明」を用い、加えて丁寧な説明を記載する旨を説明し、事務局（案）のとおり取り扱うことが承認された。構成員及び出席者からの意見等は以下のとおり。

- ・資源動向については、機械的に評価した方がよい部分もあるが、指標値が極めて低くなっている場合は、「不明」とする方が妥当。東京湾のマアナゴについては、2017年のCPUEがもう少し高かったら切片がマイナスになってしまうと思うので、計算しようがない。
- ・表現が伝わりにくいことに対する工夫だと思う。一方で不明と判断する基準をどうするかという問題はあるが、全体を勘案し、その時にどういう意見が支配するかで、決めていくしかないと思う。

(2) 平成30年度資源評価対象種の選定について

今回の検討の結果、昨年度の資源評価対象種については、今年度も引き続き資源評価を行うこととし、ホンビノスガイについては、次年度以降、評価の実施を検討す

ることが承認された。構成員及び出席者からの意見等は以下のとおり。

<昨年度資源評価対象種>

- ・昨年度資源評価対象種については、特段の状況の変化もないことから、今年度も引き続き資源評価を行う。

<昨年度資源評価対象候補種>

- ・ホンビノスガイについて、現在、東京湾北部地区の貝類漁業において、最も重要な魚種となっており、生態や資源に関する情報の提供や資源管理を進めたいといった声も聞かれていることから、次年度以降の評価実施を検討する。
- ・ホンビノスガイは、外来種だが、平成 25 年には漁業権が免許され、平成 29 年度には千葉ブランド水産物にも認定されている。持続的な利用を図りたいという現場のニーズは高まっている。

(3) 資源評価指標の変更について（コノシロ）

コノシロについて、これまで東京湾で操業する中型まき網漁船の CPUE を評価指標としていたが、情報の収集が不可能となったため、別の指標を検討することとなり、「農林水産統計年報の漁獲量」を指標とし、参考情報として「東京湾の漁協の漁獲量」を評価票に記載することで対応していくことが承認された。構成員及び出席者からの意見等は以下のとおり。

- ・資源評価は、農林水産統計の漁獲量により行うが、農林水産統計はデータの公表が遅く 2 年ほど前のデータを基に評価することとなるため、参考として、直近の漁協の漁獲量データが添えられているのが良いのではないか。
- ・正しく評価するという意味で、農林水産統計の漁獲量で評価し、正しく伝えるという意味で、漁協の漁獲量データを示すというのがいいと思う。

(4) その他

事務局から今後のスケジュールを説明し、意見等は特になかった。